

入選

やさしい未来

三和中学校 二年 福島 菜月

ガタガタガタ。

暑い夏の日、病院の待合室でのできごとです。

私の前の席で足にバスタオルをかけ、寒さにふるえている80才ぐらいのおばあさんが座っていました。そのおばあさんは、私たちよりも早くから順番を待っているようでした。

30分以上経ちましたが、私たちはもちろんそのおばあさんも診察室に呼ばれませんでした。

私は、母と妹と3人で待っていたのですが、45分経っても呼ばれず(まだかな～?)とイスにずっと座っているのが辛くなってきました。

おばあさんは急に立ち上がり、受付の事務の人に、

「あとどれくらいですか。」

と、聞きました。すると、事務の人は、

「あと1時間ぐらいかかります。」

と、冷たい口調で答えました。おばあさんは悲しそうな顔で、

「寒かいです。」

と、言うと事務の人は、

「さっき座っていた所は、エアコンが直接あたるから、エアコンから離れたところに座って下さい。」と、手で案内するだけで、また冷たい口調でした。

おばあさんは、手押し車を押しながらこまった顔をして席を移動し座ろうとしたとき、その近くに座っていた人が、

「こちらがいいですよ。」

と、エアコンが当たらないところを教えてくださいました。それを見ていた私たちも、心がほっとしました。

今の世の中は、パソコンやスマホを持っていてあたりまえの時代です。病院の予約もスマホで簡単にできるようになり、若い私たちにはとても便利です。

しかし、高齢者の方にとっては難しくて辛い世の中なのではないのかと思います。

ある病院の待合室で、たった1時間ほどの間に起こったできごとですが、いろいろなことを考えました。

私が受付の事務の人だったら、おばあさんの気持ちになって一番いい方法で診察室にできるだけ早く通してあげたいし、エアコンの当たらないところへもやさしく連れて行ってあげるだろうと思います。

エアコンの当たらない席を教えてくださいました人の小さな親切で、あの待合室にいたすべての人たちの心が温まったのではないかと思います。

若い世代も高齢の方も、同じように暮らしやすい世の中になればいいなと強く思いました。